

令和3年度第1回兵庫県立図書館協議会 会議録

1 日時及び場所

令和3年9月30日(木) 10:00~12:00

2 出席者

協議会委員 太田委員 角本委員 川石委員 久野委員 齋藤委員 崎野委員
林委員 春名委員 藤井委員 三浦委員

教委事務局 社会教育課杉谷課長 三木主任指導主事

県立図書館 村上館長 井上次長
小野山館長補佐兼総務課長 谷口利用サービス課長 前川ふるさと・資料課長

3 会長、副会長選出

会長に角本委員、副会長に藤井委員が選出された。

4 議事

次長より、「兵庫県立図書館運営状況」(資料1)、「令和3年度展示・研修・講座年間計画表」(資料2)、「中期運営方針の自己評価」(資料3)に沿って説明

- (委員) 運営状況20頁の図にある公民館図書室2町2館とはどこのことか。
- (図書館) 町に公共図書館がない香美町(但馬)と神河町です。
- (委員) 川西市にも公民館図書室があるが、県内の公民館図書室と中央館の連携はどのようになっているのか。
- (図書館) 図書館協会で(町に公共図書館がない)公民館図書室も含めた103館がダイレクトにつながりがあります。
- (委員) 様々な講座やイベントを行っていることを知らなかった。運営状況10頁にあるスキルアップ講座の対象は誰か。
- (図書館) 9頁に子ども読書推進活動事業の一環として記載されていますが、市町立図書館職員やボランティアが対象です。
- (委員) これから社会人に向かっていく子どもが対象だと思った。読み聞かせのスキルアップのためのものか。
- (図書館) 読み聞かせのスキルアップのためのものが多いが、令和2年度は「公立図書館と学校図書館の連携」をテーマにしています。
- (委員) 川西市の行政センターにある公民館図書室には、県立図書館のサービスや利用に関する情報が届いていない。県立図書館を紹介できる末端の図書館に届く企画や、市町の県民にダイレクトに県立図書館を紹介できる連携を考えてほしい。
- (図書館) 県立図書館として各市町の中央図書館へ情報を連絡し、そこから先のことは把握できていないのが現状です。文書に連絡が行くよう加筆するなど、県立図書館から市町の公民館図書室へもなるべく情報が行き渡るようにしていきたい。
- (図書館) 県立図書館は身近な市町立図書館に比べて県民に知られていない。県立図書館をPRしていただけるのはありがたいことなので、そのためにもイベントや事業の案内についてきめ細かく通知できるようにしていきたい。また、ホームページやマスコミを活用して広報を行っていきたい。レファレンスサービスについて、県立図書館の窓口を紹介していただけるのはありがたい。講座について周知していただいて、参加人数を増やしていきたいが、座学の形ではコロナ禍においては人数制限が必要となってくるので、インターネット配信等でより多くの人に図書館を活用していただけるようにしていきたいと考えています。
- (委員) 運営状況22頁にある「予約資料の着払いによる郵送貸出」について、神戸市立図書館でも高齢者等図書館へ来づらい利用者への郵送貸出を行うべきだという意見があるが、閉館中だから行われたサービスというだけでなく、恒常的に続けて行くということも考えているのか。また、郷土資料のデジタル化について、一般公開を行っていくのか。
- (図書館) 着払いによる郵送貸出は現在需要もないということから考えていません。現状は直接窓口か、

市町立図書館との協力貸出か、インターネット予約の3つの方法による貸出を行っています。郷土資料については、現在のシステムでできる範囲では行っています。

(委員) 着払いによる郵送貸出をしてまで借りたいという本はどのような内容なのか。金額的にはどのくらいなのか。どんな人(どの地域に住む人)が借りたのか？

(図書館) 分野としては様々な分野があり、いわゆるベストセラー本はなく専門書が多かったです。

(委員) 昔の土地に関する資料については、県立図書館でないとない本もあると思う。そういう部分も外へ知らせていけば、見たい人が増えると思う。そうすれば県立図書館の価値も上がると思う。

もう変わってしまった土地の昔の土地についての特集を、例えば地域毎のシリーズのようにすれば、特に高齢者等は見に来るのではないかと思うので案として言わせてもらった。

(委員) 運営状況の2頁の収集方針に、資料は学術書や専門書を中心に収集するとあるが、これは県立図書館しかできないことだと思う。Facebookは楽しみにしている。大変だと思うが、今後も更新を続けてほしい。17頁にロビーの活用について書いてあるが、展示用にロビー壁面を誰でも活用することはできるのか。

(図書館) 誰もが活用できるように貸館は行っていません。明石高校は同じ県立であったり、明石高専は講座等でつながりがあるので、ロビー展示してもらっています。

(委員) 他の県立高校の美術科にも声をかける等、門戸を広げたら良いと思う。来館者数は数字にこだわらず、少なくともよいと思う。自分は電子書籍の書評を書いているが、電子書籍に疲れ始めている人もいて、紙の書籍に戻ってくる傾向があるように思う。

(図書館) 郷土資料については、図書館の強みであると思います。特に兵庫県に関する郷土資料の最後の砦であり、「県立に行けば資料がある」というのが重要な役割であると思います。電子書籍については、予算があれば導入できるが、図書館で行っているのは、主に保存のためにデジタル化です。ムーブメントの中でデジタル化について言われる傾向があるが、特に若い人にとって、手に取って親しむ紙の書籍がある環境づくりを行うことも重要であると思います。貸館を行うことは難しいが、ロビーに関しては様々なコラボレーションを行い、有効活用していきたいと思います。

(委員) 利用者数を見ると、コロナによる休館で減った時期もあるけれど、コンスタントに県立図書館が使われていると見ることができる。つまりニーズはあるということなので、維持していくことが重要。そのためには、まず図書館に来館してもらう。昨年度のホームページの更新により見やすくなったので、来館のハードルは下がったと思う。運営状況20頁の協力貸出については、県立図書館の重要な役割であり、県立図書館には県立にしかない本があるという強みを活かして、協力貸出などを通して、県立図書館の利用者として取り込んでいくと良いと思う。

(図書館) 現在のシステムでも、国立国会図書館を含め横断検索が可能ですが、題名や著者名等の一部の書誌情報のみで、内容まで見ることはできません。県立図書館が、一つの館だけで県民のニーズに応えていくのではなく、県立図書館のネットワーク全体の、連携型の図書館機能の中で中核的存在であるべきだと思います。7月にはマイナンバーカードの利用も可能(ワンカード化)となっています。

(委員) 既にいろいろとされているようなので、弾みがつくようお願いいたします。

(委員) 郷土資料については、県立図書館の役割であると思う。郷土資料のデジタル化やホームページ更新を外部委託して、見やすいものにするには経費がかかることだと思うが、岡山県では市民参加(市民協力)を行っている。経費不足や人手不足を補うことができる。市民ができることがあるはず。講座やイベントに専門知識がある人が参加している可能性があり、参加者を巻き込んで発展させるのが良い。

(図書館) 講座やイベントの参加者をそれで終わりと考えず、いろいろなやり方を考えていきます。

(委員) FacebookやYouTubeで情報発信されているみたいですが、SNSに積極的でない人に情報が入る方法を考えたら良いと思う。明石には明石文化芸術国際創生財団があるので、そこから情報をもらえば広報ができて、参加者が増加すると思う。これからは、講座はWebとのハイブリットによりお披露目できたら良いと思う。明石公園のパークギャラリーから図書館へつながる展示の工夫をする等の広報が大切だと思う。

(図書館) ここ2、3年SNSは少しずつやっているところですが、少しずつでも広報をがんばっていきたいと思います。パークギャラリーの内容を充実させていきたいと思っています。

(委員) 今年度もビブリオバトルを開催していただけるようで、ありがとうございます。昨年度

の YouTube を見たが、メリハリがなく飽きてしまう。音声も聞き取りにくい部分があるので、工夫をしていくべきである。

(図 書 館) ビブリオバトルについては、撮影についてはビデオサークルがボランティアで協力してくれています。図書館は技術的について行けていないところがあるが、工夫をしていきたいと思います。

(委 員) 費用対効果という見方をした時に、利用者数は平成 30 年度から増えているが、利用登録者数は減っている。なぜなのかメカニズムを教えてください。

(図 書 館) 平成 30 年度はリニューアルオープンがあり、9 ヶ月しか開館していません。そのため利用者数は増えていますが、登録の有効期限は 5 年で切れてしまうため、明石市民図書館が移転してしまったこともあり、期限が切れて再登録しない利用者もいることが考えられます。

(委 員) 登録しないとできないことは何かあるのか。

(図 書 館) 登録がなくても、閲覧はできます。登録が必要なのは貸出だけです。

(委 員) 登録すればこれができるという付加価値を付けられないか。そうすれば、宣伝になるのでは？国立国会図書館は登録することによるメリットがたくさんある。年度末登録者が右肩上がりに増えることが一つの指針になると思う。

(図 書 館) 館内でインターネット利用する時は、登録するように呼びかけています。いなみの学園や阪神シニアカリッジにチラシを配ってもあります。講座での広報や SNS を充実させて広報していきたいと考えています。

(委 員) 新聞への掲載の件数について、平成 28 年度は多くて、現在は減っているが何か理由はあるか。

(図 書 館) 理由はすぐにはわかりませんが、新聞に載るように、これからも努力していきます。

(委 員) 年齢の高い人は、新聞から情報を得る人が多い。取材に来てもらうよう、記者クラブを活用する等も一つの手法だと思う。

(委 員) 裏方の図書館ボランティアもしている。書庫に戻す仕事をしているが、新しい本が増えて、書庫に入らない時がある。収容能力があと 5 年しか持たないということは大きな問題なので、新しいスペースの確保が重要となってくる。

(図 書 館) 大閲覧室の雑誌棚を移動させて、新たに書架増設と可動式書架新設を考えています。また重複している図書等の除籍（廃棄）もちようど行おうとしているところです。

(委 員) 雑誌を捨てるのはもったいない。隣の旧明石市立図書館をもらうというのはどうか。

(図 書 館) あまり読まれていない雑誌を開架から移動させるということであり、イコール雑誌の廃棄ということではありません。

(委 員) 営業や広報をやってきたが、知ってもらうことが重要だと思う。SNS に力を入れるのが良いと思う。Twitter でバズった経験があり、250 万人の人が見てくれていた。企画展示を減らしてでも力を入れる価値があると思う。